

特67

395

復乾童子玉海 原著

訂正
傍訓

無病長生訓
あが いきま す る けん
むびやうちやうせいじん

全

六花園藏版

060829-000-3

特67-395

無病長生訓

復乾童子玉海 / 著

M14

CBM-0755



明治十四年五月九日御届

定價金六錢

出版人

東宮和歌丸

東京淺草區淺草森下町
十三番地寄留

此書御望ノ方ハ代金相添弊園へ御注文被下度候

東京淺草區淺草小島町
五十七番地禊教社内

六花園

訂正 無病長生訓
傍訓

復乾童子玉海 著

凡そあめつちの中よ、いたと、いけるもの生を愛して死
を悪まごるいあ、生ハ天地の大徳あり生可れハ必らず
其食あり食ハ生を養ふ也、死んて生あるもの、食を
求るハ、慾情の、かこるは、ト、然あり、かくてハ、彼の生を、ち
むると、慾情より、甚しき、ハ、何ら、ト、さる、マ、て、人ハ、萬物の
靈たり、ふくも、此と、わりを、わきまへて、自ら、其天然を、ま
らん、又、於てハ、實、マ、かぎりなき、壽命を、得、べ、た、もの、ぞ、聖
人ハ、死生有命と、教諭、給、ひ、釋、氏ハ、生者必滅と、示、たり、

訂正 其の意を正す

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

長生不死ハひやり神仙の脩する所あり抑吾邦神世の
 古一ハ人壽萬々歳ありしはるり人々の世の今と成
 てハわづら百歳を経るものすらいとまれありりよこ
 いハある故よりにて志成下るにやむりよりか
 こた人々の考めなりりハいと何やむべたことな
 らばや且人の世と成ても人皇のはた然神武天皇より
 第十七主仁徳天皇までハいづののみりども御壽百歳
 或ハ百三四十歳までまませしが履中天皇よりこと
 た今に至りて百餘代のうち御壽百歳よとせ給ふみ
 うど只の御一方もおはしませず景行天皇の皇女倭姫

命ハ五百餘歳又ハ七百餘歳とも云り大臣武内宿禰ハ
 景行天皇より履中天皇まで七世のみりどもつうへ奉
 る三百十七歳と云す三百三十歳とも云りおのれ謹考
 るよ猶其ころハかく忍ぶとなきうへくさへあく長壽ま
 せし下る下下ハ五百歳七百歳のノいくばくも
 はべりて何れも尋常おればさの長壽とも思はむたと
 幾千歳迄あらへ一人ありとも後世へ申傳ふべきよ
 もあし猶其ころハ人々巳が歳の數のらぬも比多るる
 後世も及んで武内倭姫あど長壽せしよしとひは
 す其人の事實を記したるふみども其年歴は

て心づきたるあり必らぎし其比より長壽のきこえ有
 て傳へたる又り又から天竺あどいはやくより奢侈
 をいたし美味は耽りて人命を損ぜしふや釋尊の時人
 壽百歳と説示されたり且須彌の北俱盧州人壽千歳と説
 れしは聞ふ吾皇邦をいまれしにやさるまて其比も
 ろこしよて奏の始皇東海のうちよ神仙の洲ありとて臣
 徐福といふものをゆたせしりば徐福吾皇邦よ来り造
 り富士の終よちのぶりあるは熊野山よわけ入て志き
 りよ不死の藥草をさぐり求しよ彼國のふととも見
 えしとかや徐福よ本邦へ来りし人皇七代 孝靈天

皇の御宇ありしよ、溪川士清が日本紀通證よりし
 りかくて其比より外國よてハ、専ら皇邦を稱して神仙
 の洲と云あせしりば、から邦の人等志きりよ皇邦を志
 たひあつたりしりる日や、崇神天皇の御宇よ、任那人船
 来して種々の貢物を奉りたる、さて仲哀天皇の御宇よ、
 至り三韓のものをら、度々船来して吾西のほとりの人等を
 頻りよあつけしにしみる故よや、西のほとりの人等悉
 くたむりしきて、彼よあびた、吾みうどをうとんと奉せ
 るふぞ、天皇深く大御心をいたませらし、御壽をみどか
 くあしたまひき時よ、息長帯姫尊神切皇后、天皇の大

御いきどほりをつがせ給ひ、みづうら大御軍船をよそひ、
 高き波濤を打こえて、遠近三韓へかゝわらせたまふ、こ
 の時三韓の王等、神聖の洲の君みづうら大御軍をひき
 めてい下まきと聞て、悉くおちれそれ、ふるひわあまきて、
 みづうらとらまれとあり、大御船へもろを来て、速く御軍
 を降りぬ、故れつるぎよ血ぬらぎして、まきくくひまふ悉
 く三韓を服さしめ給ひき、これよりおのかた、韓人等よろ
 こんで志きり小来入し、これよりも人々多く彼邦へ往来
 せり、あくて此ころ、吾みうどを初として、群臣諸士、こぞ
 りてから邦の華麗あるさまをうらやみたる、故にいづ

う唐風を摸し得て、宸殿宮閣或は高樓樓門あどいと唐め
 うく成衣服調度も、からまきよ、からころゆよと何く
 れのこよも、からぶりを免で給ひしう、應神天皇の御
 代と成て、ハ宮中ハもとより、群臣諸士の室家門屏に至る
 まで、華麗をつく、男女の衣服ハ互に美をそふ、栄花の
 ありさまハ、皇朝はとまりてよりこののと、實は前代未
 聞の事どもとあつて、志られたあかくて、大鷦鷯尊仁徳
 天皇天が下を志ろしめす、及んで、群臣諸士の奢侈も長
 したるさまをいとなげう、且ハ民のあまどのけぶ
 り、いとたえ、あるを深くかなしみ給ひ、民は三年の課役

をゆるし給ひき、帝ハ其日よりお目んをのけに目んあつ
 もの鍋腐らざまは捨たまはまはまははん夜やぶまつきざれ
 ばあらため給まき既ハ三年ハ成ぬる比ハ大殿屋やれて
 星の光り隙をあらはまはまははん夜露ようるはひど更ハ
 憂ひさせ給ハ民等まぞりて貢奉んをを孫らひ阿へれ
 ど更ハまきたまひ終ハ七年迄課役をゆるし給へるま
 そ天ガ下の奢侈ハ悉く止らせて民の寵ハ十分ハ饒ひけ
 る實ハ阿りがたりける御代ホリハ後々迄ハひ
 りの御代と阿ふたまつる其深き大御うつくしこの不ど
 ハ筆舌のおよぶべくも阿らざまき阿るまこのごろ韓人

等頻り小入来りて種々の飲食を制し化制調味して人口
 を悦ばしむるまぞ人々こぞりて美味を好み羨をたし
 厚旨ハ耽る是ハ於てや、臟腑とろけ筋骨ゆるく肉肥て
 皮膚うるはしく成力ぬけ勇氣くどけて疾に淫慾をおこ
 し男女悉く淫を嗜み見を産ま多しと雖ども育がたした
 まく成長するも軟弱多病よして更ハ英雄の氣性ホく殊
 ハ長壽成がたし其子其孫いふく壽ちままりて氣性衰へ
 次々柔弱ハ流る是ハこの御代より後人壽俄ハちま満りた
 るお忍んちり後世ハ至りてハ戦乱の世に生る者ハ英雄
 剛強比人多く治世ハ生る人ハ柔弱よして貪慾のホの多

訂正其病養生訓

四五 六ト 國成反

是他あり治世と乱世とい、飲食の志亦大に異あるを以て
 あり精密化制熟飪此をのを常食すれば體骨おのづり
 ら軟熟して柔弱をあり粗制略飪の物を常食すれば臟腑
 かたまり筋骨あまりておのづりら剛強をお失されれば下
 が下よても金満家此兒ハ軟弱よして育がたく貧家の兒
 ハ無病よして育やましく且邊鄙山谷の地ハ長壽の者多
 く大都市中ハ長生此をのたえてありわかき男女は癆
 瘵癩癩或ハ癩疾等をやむものハ都鄙共ハ皆金満家の兒
 あり美味をたしく酒肉よふけり厚旨を貪りて自ら生命
 を損ずるのくおらむ大毒を子孫へおくり其血筋をけが

甚とをあれ豈過失の甚しきはあらばやさるよても極密
 精制調和熟飪して旨味を貪るとハ未だ蘭人より甚しき
 ハあらどみましく彼紅毛等淫乱放埒にして賊氣多く且つ
 短命四十歳をとゆるものありとらやこれといとかまはり
 深山幽谷に住で天然此食を甘んずるものハ狐狸猿猴の
 類いづれも千歳の齡を経るものあり且世ハ仙人と稱す
 るものあり未だ見ざと雖どもいさく考ふる所ありお
 よそ人の山谷へのり生入もの其はト然豈好んでこれを
 せんや必らむ止とを得ざるふ當りて多分の糧食をたづ
 さへ山よ入り幽谷よ身を志せふ志ば一タはどは猿猴狐

狸のやりらなれちりづき且敬し且たよりて類をあつめて、巴^{おの}主^{しゅん}君^{くん}と親^{おや}むあり是に於ていとこゝろよくたのしみ舊を妄^{まが}きて山中^{やんちゆう}は数年をかさね其糧食つきんとするころは木實草根悉く食^く習ひいつり天然の食を甘ん^{まん}どてかぎりあれた齡を經る身とい成つるありさて猿^{ざる}猴^{こう}狐^こ狸^りのたぐひいづれも長生此のあきども人家へ近より人の食を貪るよ於て忽ち臟腑とろけて腹中^{はらちゆう}は虫^{むし}を生^なト生^{せい}をちぢめて人^{ひと}不^ふどの齡もたるとつこと能^{あた}はざさ^さらば生^{せい}を養ふとい天然の物を其まゝよて食するよりよきいあく生^{せい}をちぢむるその火^{くわ}食^{じき}化^{くわ}劑^じ調^{てう}味^みれものを食す

るより甚^いき^まき^まい^いあ^あさ^さて^てハこれ又^{また}無病長生の術も詳^{しやう}まあり給^{たま}ふべ^い火^{くわ}食^{じき}を絶^たて水^{みづ}を飲^のば仙^{せん}骨^{こつ}を得^えるも更^{さら}又^{また}うたぐひあ^あふ^ふれ^れども今^{いま}の火^{くわ}食^{じき}ハた^たち^ちが^がた^たう^うん^んとす宜^{よろ}し^し冷^{れい}物^{ぶつ}を食^く水^{みづ}を喫^くま^まべ^べした^たえ^えて温^{おん}熱^{ねつ}の物^{ぶつ}を飲^の食^{じき}するをせむ其^{その}上^{うへ}ハ塩^{しお}を食^くするもあくんバ無病長^{むびやうちやう}生^{せい}う^うた^たぐ^ぐふ^ふとあ^あふ^ふ多^た病^{びやう}天^{てん}折^{せつ}ハ人^{ひと}々^々悪^{あく}と嫌^{きら}ハ^はざるハあ^あふ^ふ無病長^{むびやうちやう}生^{せい}ハ人^{ひと}々^々糸^{いと}グ^グハ^ハ求^{もと}め^めば^ばといふとあ^あふ^ふ其^{その}糸^{いと}グ^グハ^ハ求^{もと}る^る所^{ところ}を^をた^たや^やま^まく^く得^える^るの道^{みち}を^を知^しる^るを^を得^えたり^りこれ^{これ}を^を知^して^て行^いま^まざる^るハ^ハた^たり^りの山^{やま}の^の不^ふり^りて^て手^てを^を空^{くう}しく^く下^{くだ}る^るより^{より}あ^あろ^ろろ^ろあ^あり^りと^とせん^ん且^{かつ}齡^{ねい}を^を延^のぶ^ぶハ^ハ年^{ねん}を^をむ^むさ^さば^ばる^るの類^{るい}は

訂正 其の三三三三川

〇二二六〇同反

阿らむ人として才能なきは猿猴は劣れりことをして有志
 の輩ハ何を以て志を達せんとして勤仕の面々ハ我一
 勲功を遂んとす志うれども齡乏しく去てハ何事も成
 就すべからばはくや吾皇邦ハ其むく異邦より神
 仙の洲と稱し且ハ吾神國と唱ひて靈威を萬邦へ夷
 たりし今ハ悉くからぶりをまぬらるよを彼まか
 さまか如く成下りハいりよくちをきまとのかきりか
 らきや皇邦の人たれり此ハ志あらんや今より思ハ
 かハ美味を貪るの心をうちまらふてこの長生法を
 脩ハ人々をして悉く筋骨をかえしめ各聰明英雄長壽

あらしめ上古神武の威風よりへ吾神國の靈威をか
 ら邦迄へおしとるるをさんとをこひ終ぐふの今の人
 よく此道を脩し守らば猶百歳の齡ハ保たるべし百歳を
 たもつ人の子ハ百二三十歳おらふべき子生るべし
 百二三十歳の人ハ百五十二百歳の子も生れ出んとす
 りみくも此道を其子其孫と次第に相續し脩し守ら
 ん不於て百年の後ハかあらば人壽千歳の勢見えて異邦
 のもの等悉くおそれあて實ハ神仙の洲とあらだかし
 こして悉く吾皇邦へ事ふまつらむべきありさるよ
 ても聖人の道ハ益尊敬すべきあり益信し行ふべし益学

ひ習ふべし、から邦のふりをバ、あく迄悪むべし、あく迄い
やむべし、あくまで志りぞけまらふべし、

訂正 古今和歌集餘材抄 契沖阿闍梨撰 全二十二卷

古今集ノ注釈世其書ニ乏レカラズト虽氏此書ハ元禄年間契沖阿闍梨
博洽ノ才豊贍ノ学ヲ以テ水戸義公ノ微ニ應レ撰著スル所ニシテ實ニ
此集注釈ノ嚆矢トモ云ベキモノナリ且ツ其ノ説ノ確實明詳ナル世人
ノ熟知スル所ニシテ後人ノ諸説皆此ニ基カザルハナシ然ルニ惜イ哉
未夕板刻ノ書ナキヲ以テ書寫ノ際誤謬ニ誤謬ヲ重ネ魯魚亦尠少ナラ
ズ余之ヲ嘆スル久シ今諸本ヲ集ソ異同ヲ校合シ且ツ龍頭ニ於テ水書
ノ餘蘊ヲ詳解シ有名諸大人ノ校閱ヲ乞ヒ有志ヲ募テ出版ニ着手セン
トス五ノ江湖有志ノ諸茂豫ノ住所姓名ヲ通報セラレント

明治十四年第五月 東京浅草区浅草 六花園主人謹白

小島町襖教社内

傍訓 正 無病長生訓 終

此書ハ弘化三丙午年季笈の比粹ニ上せたり、星
つり物ウハ行がましく、今ハ寥々として見る人まれ
又ありたるハいと惜むべきとみ、あるを已先つ比也
くりあく古及古とう出、中ニ此書のそこらやれそこ
あはれたるを見いでたり、依てくれ、さよと校あるよ
今ノ究理の説ハ合はぬ、あるめきど此ま、よ
しこのまきくとあさん、ほいあらねば、こたびりくハ
もの、同好の人等、又わりつ、よあん、く、り、あ、ハ
明治といふ年の弥生廿日 六花園主人

